

記憶の形象

没後10年島内きみ展



Juhachi-Shinwa Art Gallery 10th Anniversary
十八親和アートギャラリー開館10周年記念

第2弾

2022
6.18 → 8.27
土 土

肥前の 名工展



開館10周年を記念して、ふたつの企画展を同時開催いたします。

十八親和アートギャラリー開館10周年を記念した特別記念展の第2弾といたしまして、コレクションの中から絵画と陶磁器、ふたつの企画展を同時開催いたします。

季節展示室と絵画展示室1に於いて、長崎県ゆかりの画家・島内きみ展を開催いたします。島内は国画会を中心に発表を行い、淡い色彩を重ねて対象を捉える画風は現在も多くの人々を魅了しつづけています。本展では1950年代から70年代にかけて制作された油彩画8点(初公開1点)をご紹介します。

また、陶磁器展示室2の一部に於いて、肥前陶磁の名工たちの作品展を開催いたします。重要無形文化財保持者(人間国宝)など、伝統を継承し発展を担ってきた名工たちの額皿、花器、水指、茶碗など10点(初公開8点)をご紹介します。唐津、色鍋島、濁手、白磁、青磁の競演をお楽しみください。

このほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っております。



十三代今泉今右衛門
「色鍋島吹墨草花文額皿」

いまいづみ・いまえもん：1926～2001。十二代今右衛門の長男として生まれる。東京美術学校(現、東京藝術大学)工芸科卒業。1975年十三代今右衛門を襲名。翌年、「色鍋島今右衛門技術保存会」を改組し、国の重要無形文化財の総合指定を受ける。吹墨、薄墨の技法で独自の色鍋島を確立した。1989年重要無形文化財「色絵磁器」保持者(人間国宝)に認定された。



島内きみ
「本薬師寺礎石」 油彩画 P30号

しまうち・きみ：1916～2012。佐賀市生まれ。1929年佐世保市に転居。小佐世保小学校教員時に第2回新文展に初出品し入選を果たす。1941年佐世保洋画研究所を開設して後進の育成に尽力した他、1953年にはフランス留学を行った。1958年東京都世田谷区に転居。国画会、日本女流画家展等で精力的に発表。1985年長崎県立美術博物館で回顧展が開催された。

十八親和 アートギャラリー

鑑賞無料

〔開館時間〕10:00～16:00(入館は15:30まで)

〔休館日〕日・月・祝日、年末年始(12/31～1/3)

※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F TEL.0956-23-4856
西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分

